

仙台市水道事業進捗管理にかかる基礎データ

(令和 3 年度末現在)

令和 4 年 8 月

仙台市水道局

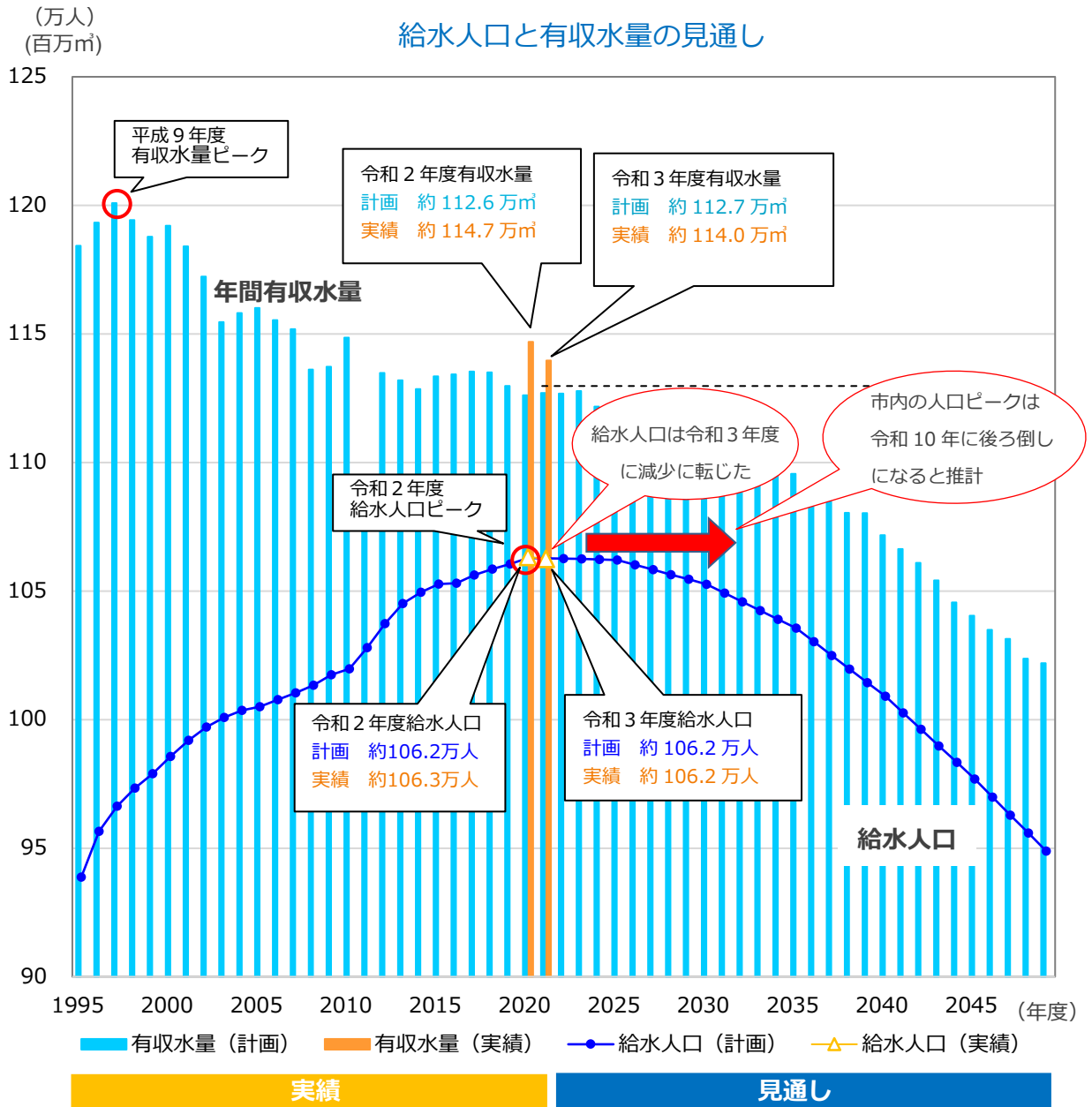


目 次

1. 長期的な水需要の見通し	1
2. 水道施設の課題	4
3. 組織・人材の課題	5
4. 財源の課題	6

1. 長期的な水需要の見通し

- これまで増加が続いていた本市の給水人口は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等に伴い、令和3年度に減少に転じました。
- 本市が令和3年度末に公表した将来人口推計では、本市の人口のピークが令和10年に後ろ倒しになると推計しています。
- 平成9年度をピークに減少傾向が続いていた有収水量は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、令和2年度に増加しましたが、令和3年度においては増加幅が減少しました。



- 有収水量の大部分を占める料金水量のうち生活用水量については、令和2年度において、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、在宅勤務や外出自粛等による在宅時間が増加したことによりコロナ禍前の令和元年度（以下、「コロナ禍前」という。）と比べ約5.0ポイント増加しました。令和3年度においては、在宅時間が減少したこと等により、コロナ禍前と比べ約4.0ポイントの増加となり、コロナ禍における在宅時間の増加等に伴う生活用水量の一時的な増加が緩和しました。
- 一方、事業用水量については、令和2年度において、移動自粛による旅行客の減少や飲食店等の時短営業の影響等により令和元年度と比べ約12.2ポイント減少しました。令和3年度においては、市民活動や経済活動の一部持ち直しにより、令和元年度と比べ約11.6ポイント減少となり、生活用水量と比べ、コロナ禍前への戻りが鈍い状況にあります。

給水人口・料金水量のコロナ禍前との比較

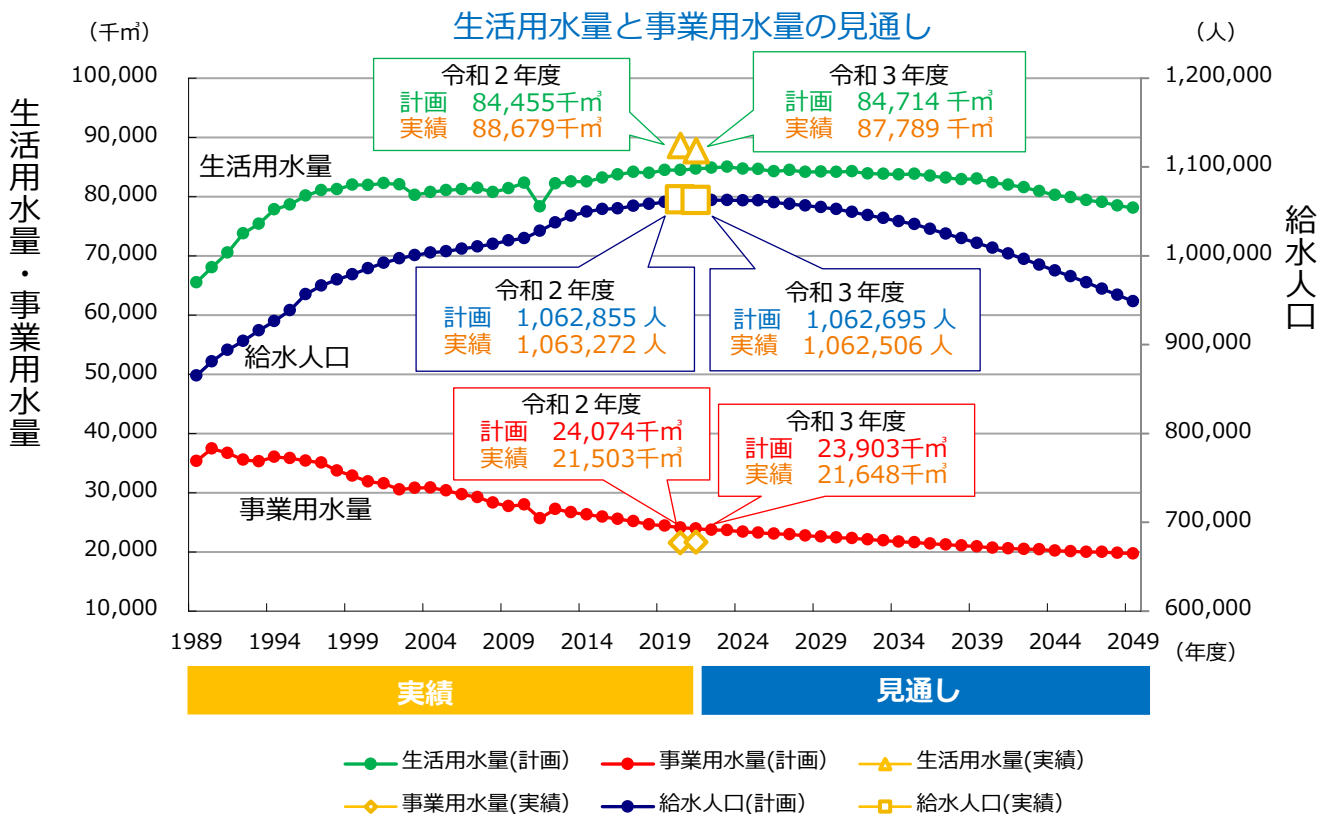
(単位：人、m³)

	(2019) 令和元年度 (A)	(2020) 令和2年度 (B)	(2021) 令和3年度 (C)	コロナ禍前との比較	
				令和2年度 (B÷A)	令和3年度 (C÷A)
給水人口	1,061,155	1,063,272	1,062,506	100.2%	100.1%
料金水量	生活用水量	84,434,695	88,679,144	105.0%	104.0%
	事業用水量	24,480,451	21,502,615	87.8%	88.4%

横ばい

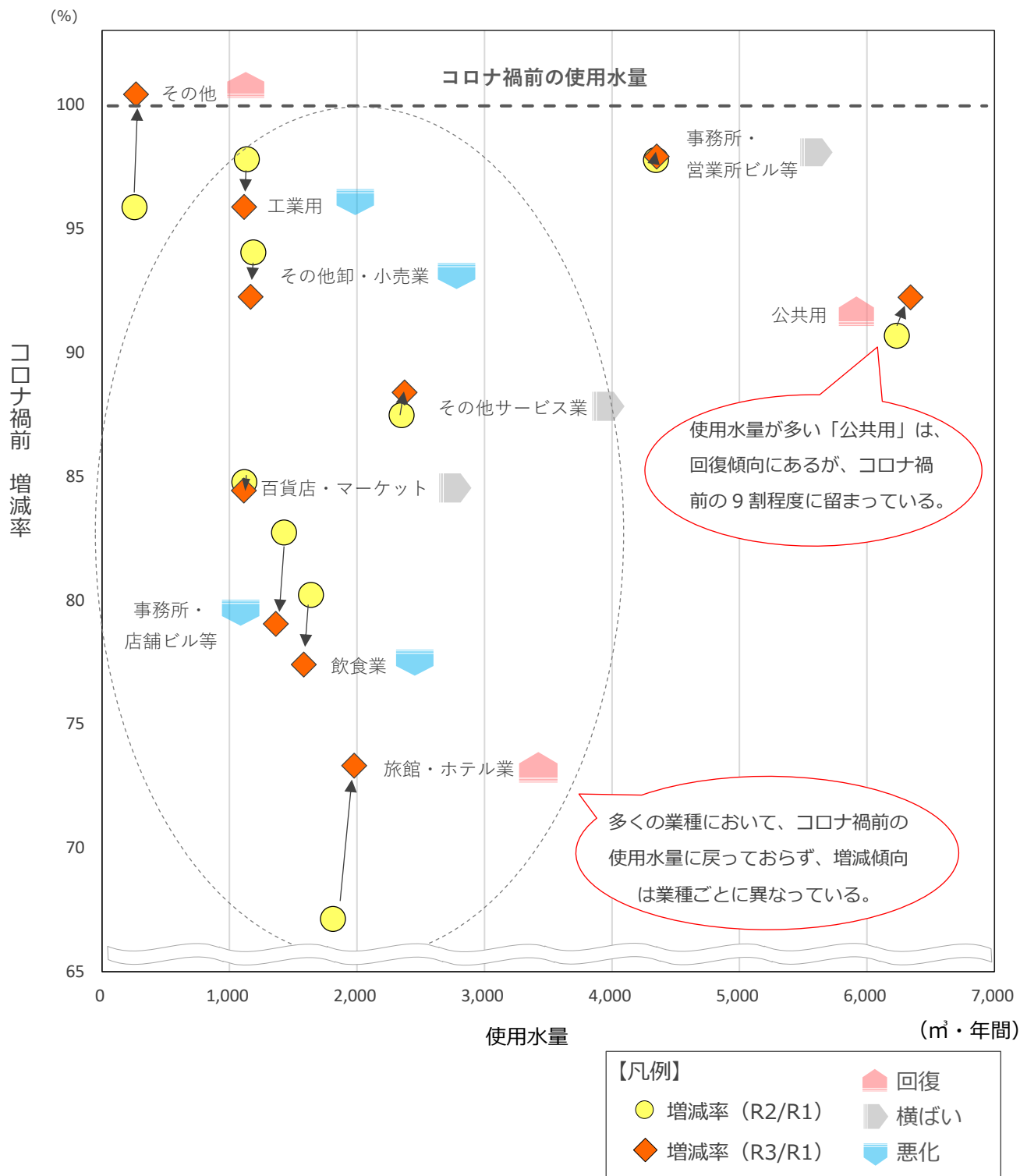
一時的な増加が緩和

コロナ禍前の水準への戻りが鈍い



■令和3年度の水需要構造は、コロナ禍前に戻る兆しが見え始めましたが、依然新型コロナウイルス感染症の感染拡大の動向により先が見通せない状況です。このうち、使用水量が多く、料金単価も高い傾向にある事業用水量については、多くの業種においてコロナ禍前の水準に戻っておらず、業種ごとにコロナ禍前からの増減傾向が異なります。特に、使用水量の多い「公共用」については、回復傾向にあります。コロナ禍前の使用水量と比べて9割程度に留まっています。

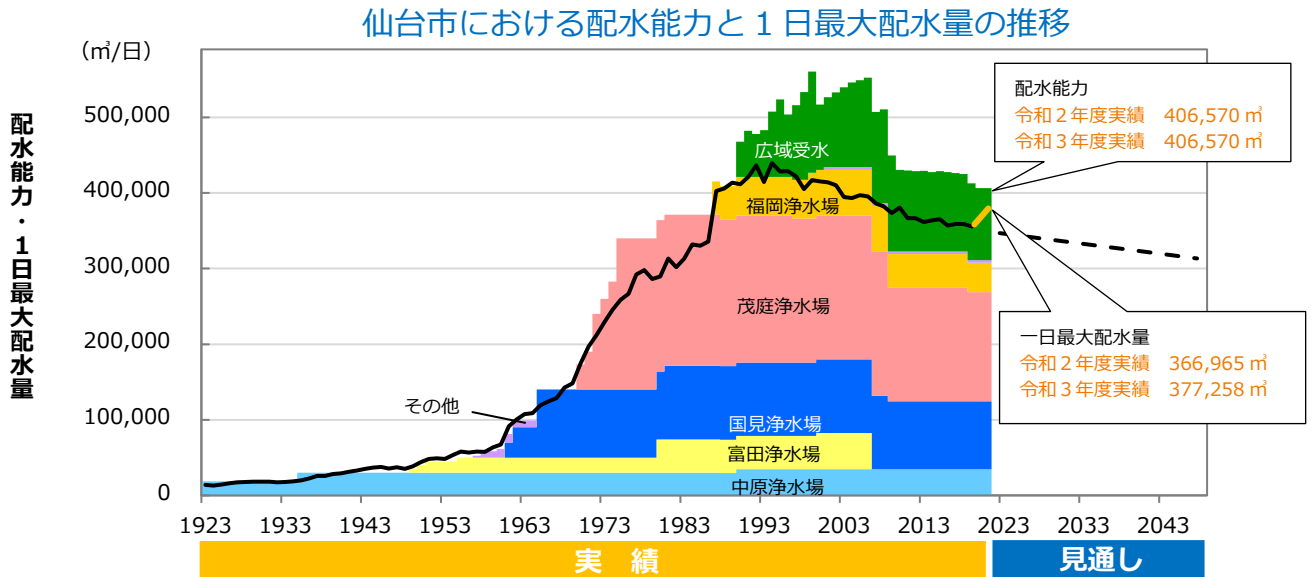
業種別使用水量のコロナ禍前との年度別増減率比較



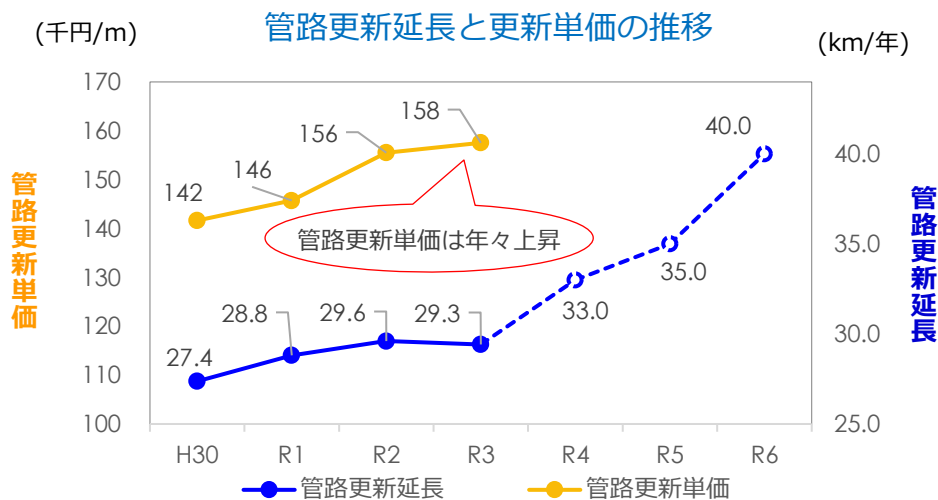
2. 水道施設の課題

参照先 基本計画 P.12、13

- 1日最大配水量は、水需要の減少に伴い減少すると見込んでいましたが、令和4年3月に発生した福島県沖地震による漏水や市民の皆さまが断水に備え汲み置きを行ったこと等により、令和3年度は令和2年度を上回りました。

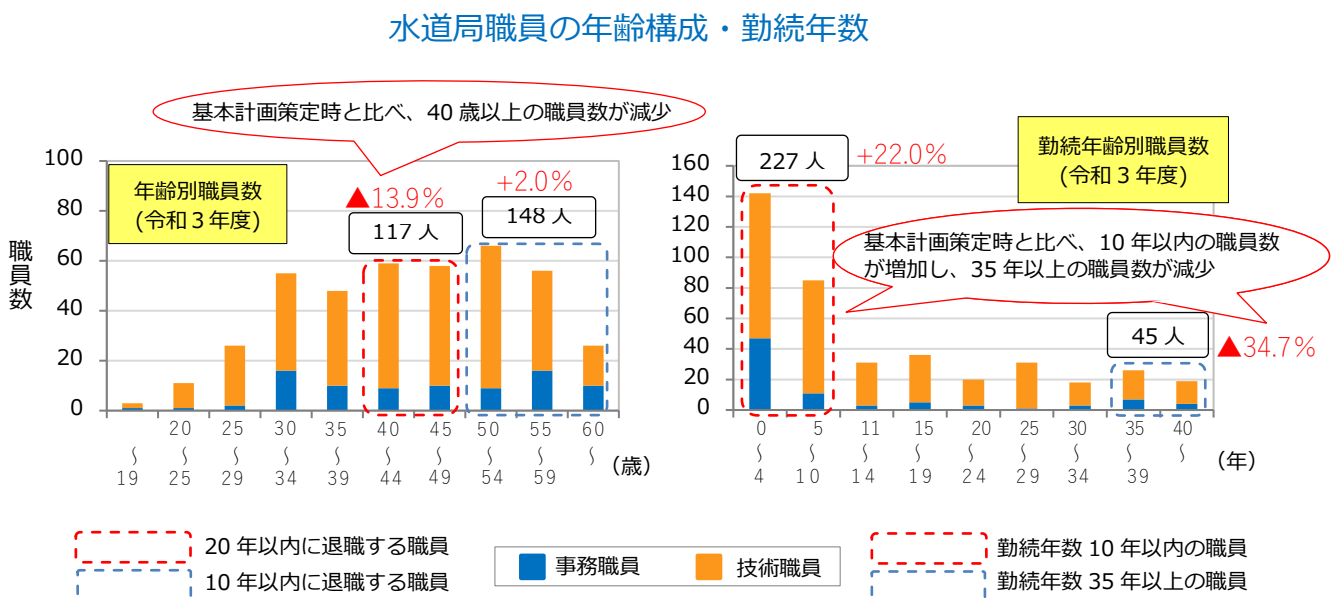
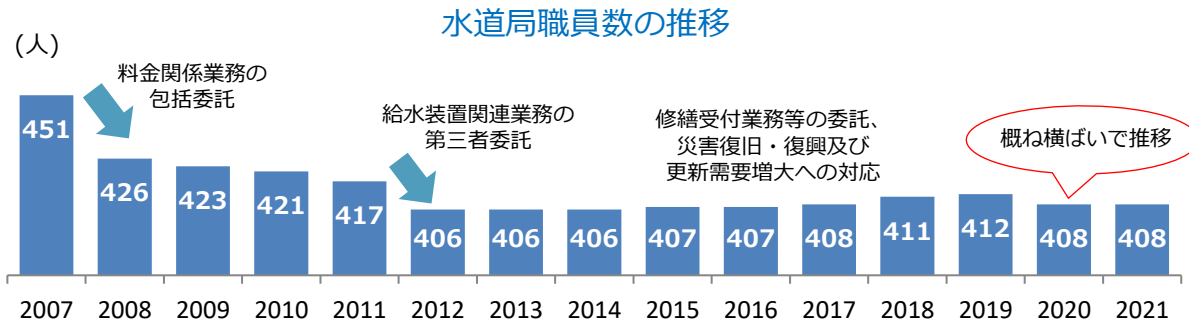


- 管路更新延長については、仙台市水道事業基本計画（以下、「基本計画」という。）に基づき、ペースアップを図りながら更新を進めており、事業費は増加していく見込みです。
- 一方、管路更新単価については、資材等の高騰により年々上昇しています。



3. 組織・人材の課題

■水道局職員数は概ね横ばいですが、年齢別職員数及び勤続年数別職員数は、基本計画策定時と比べ、30代の職員数は増加していますが、40歳以上の中堅・ベテラン職員数の減少や、勤続年数の短い職員数の大幅な増加が見られます。



4. 財源の課題

参照先 基本計画 P.15、16

財政収支計画（計画策定時）

（単位：億円・税込）

区分		年度									
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
収益的 収支	収益的收入	304	301	302	301	298	297	295	296	295	293
	うち水道料金収入	253	253	253	253	252	251	250	250	249	249
	収益の支出	278	253	250	254	252	250	252	256	254	256
	うち人件費	38	32	31	32	32	30	30	31	31	31
	うち受水費※	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
	うち減価償却費等	87	90	90	93	91	92	94	99	97	99
	うち支払利息	8	7	7	6	5	5	5	5	5	5
	当年度純損益（税抜）	19	38	39	36	35	35	30	27	27	24
資本的 収支	資本的收入	54	43	55	59	55	52	64	63	70	67
	うち企業債	34	34	46	47	46	46	59	58	66	63
	資本の支出	190	159	188	184	175	179	196	193	196	186
	うち建設改良費	127	99	129	125	120	125	145	146	151	142
	うち企業債償還金	63	60	59	59	55	53	51	47	45	44
補てん財源（税抜）		203	186	195	182	178	178	171	159	151	143
運営資金残高（税抜）		67	70	61	58	57	52	40	29	25	25
企業債残高		622	596	583	572	562	556	564	575	596	615

決算の状況（令和3年度時点）

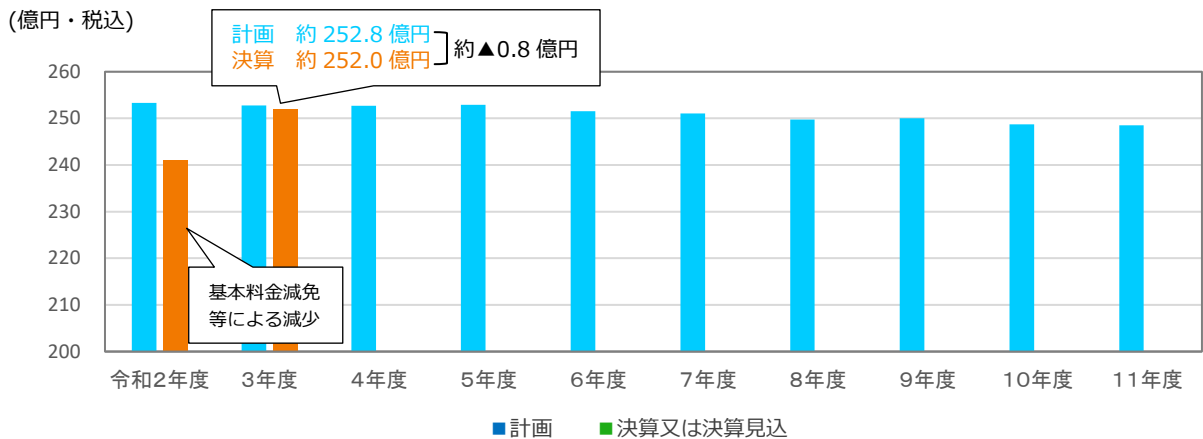
（単位：億円・税込）

区分		年度									
		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
収益的 収支	収益的收入	290	301								
	うち水道料金収入	241	252								
	収益の支出	255	250								
	うち人件費	32	30								
	うち受水費※	49	49								
	うち減価償却費等	85	83								
	うち支払利息	8	7								
	当年度純損益（税抜）	28	43								
資本的 収支	資本的收入	47	41								
	うち企業債	27	27								
	資本の支出	148	145								
	うち建設改良費	86	85								
うち企業債償還金		62	60								
補てん財源（税抜）		209	219								
運営資金残高（税抜）		109	115								
企業債残高		597	565								

※令和2年度は決算値、令和3年度は決算見込値。

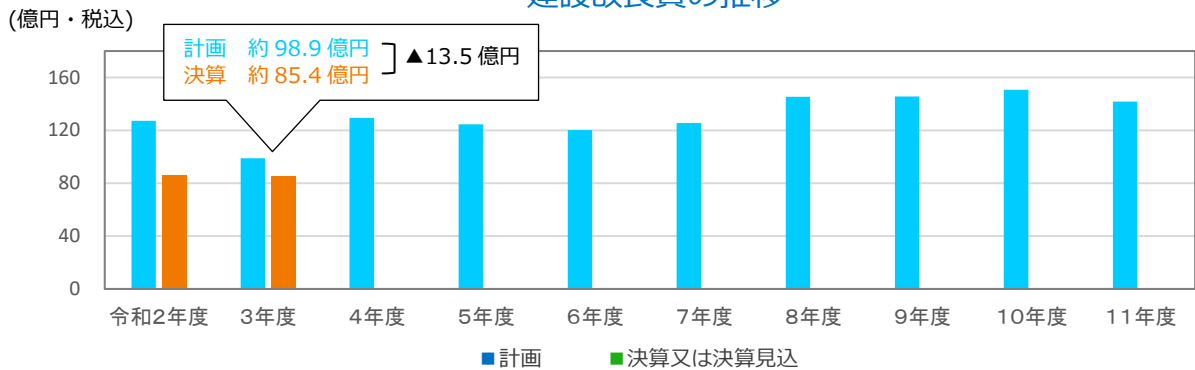
- 令和2年度の水道料金収入は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が本市の経済に甚大な影響を及ぼしていることを踏まえ、市民生活や経済活動を支える支援策として、全てのお客さまを対象に基本料金の減免を実施したこと等により、基本計画策定時の見込みから減少しました。
- 令和3年度の水道料金収入は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による旅行客の減少や飲食店等の時短営業の影響が継続したことで事業用水量が減少したこと等により、基本計画策定時から約8千万円減少する見込みです。

水道料金収入の推移

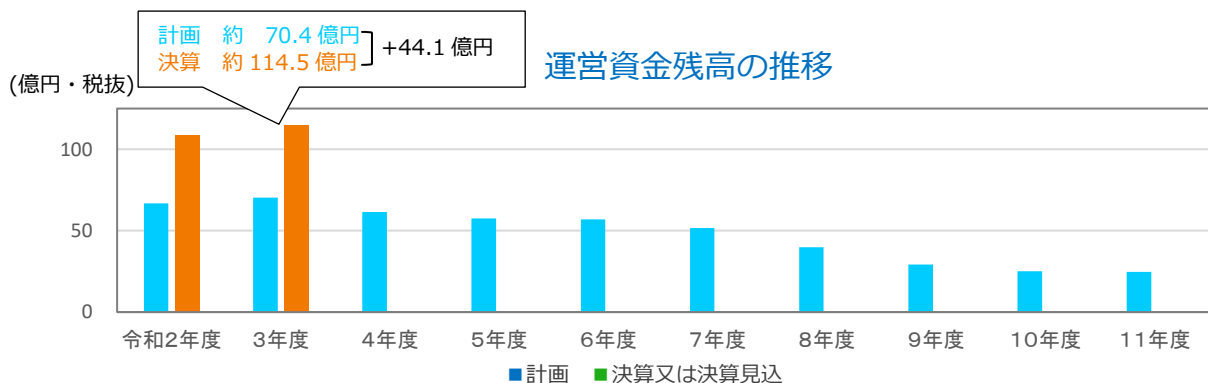


- 令和3年度の建設改良費は、基本計画策定時から約13億5千万円減少する見込みです。

建設改良費の推移



- 令和3年度の運営資金残高は、基本計画策定時から約44億1千万円増加する見込みです。



- 宮城県では、令和4年4月1日からみやぎ型管理運営方式※（以下、「みやぎ型」という。）を開始しました。みやぎ型導入による仙南・仙塩広域水道用水供給事業のコスト削減効果は20年間で約91億円と試算されており、今後、受水料金への反映等に向けて、県と受水市町との協議が行われる予定です。

※みやぎ型管理運営方式

宮城県の水道3事業（水道用水供給事業、工業用水道事業、流域下水道事業）について、PFI法に基づく公共施設等運営権制度を活用し、同県が最終責任を持ち公共サービスとしての信頼性を保ちながら、民間の力を活かしてコスト削減による供給単価の上昇抑制等を図る官民連携の運営手法。

みやぎ型管理運営方式による事業費削減額

●事業費削減額比較

結果サマリー (単位：億円)	現行体制モデル総事業費			県シミュレーションモデル					メタウォーターグループ提案				
	県	運営権者相当	合計	みやぎ型モデル総事業費			削減額		提案額		削減額		
				県	運営権者	合計	運営権者	県・運営権者	運営権者	県・運営権者	運営権者	県・運営権者	
大崎広域水道用水供給事業	270	360	630	251	298	549	▲ 62	▲ 82	276	527	▲ 84	▲ 103	
仙南・仙塩広域水道用水供給事業	666	385	1,051	661	319	980	▲ 66	▲ 71	299	960	▲ 87	▲ 91	
水道用水供給事業 計	936	745	1,681	912	617	1,529	▲ 128	▲ 152	575	1,487	▲ 171	▲ 195	
仙塩工業用水道事業	66	62	128	54	51	105	▲ 11	▲ 23	51	193	▲ 27	▲ 23	
仙台圏工業用水道事業	42	38	81	36	33	69	▲ 6	▲ 12	30	163	▲ 33	▲ 29	
仙台北部工業用水道事業	13	17	30	11	15	26	▲ 2	▲ 5	11	152	▲ 41	▲ 37	
工業用水道事業 計	122	118	239	102	99	200	▲ 19	▲ 39	91	193	▲ 27	▲ 47	
仙塩流域下水道事業	110	416	526	108	395	503	▲ 21	▲ 24	383	491	▲ 33	▲ 35	
阿武隈川下流域下水道事業	223	352	575	221	336	556	▲ 16	▲ 19	323	544	▲ 29	▲ 31	
鳴瀬川流域下水道事業	27	61	88	27	58	84	▲ 3	▲ 3	49	76	▲ 11	▲ 11	
吉田川流域下水道事業	47	158	205	46	149	194	▲ 9	▲ 10	141	187	▲ 17	▲ 18	
流域下水道事業 計	407	987	1,393	401	937	1,338	▲ 50	▲ 55	897	1,298	▲ 90	▲ 96	
合計	1,464	1,850	3,314	1,414	1,653	3,067	▲ 197	▲ 247	1,563	2,977	▲ 287	▲ 337	
	①	②	③	④ (公募条件)		⑤	⑥		⑦ ③+④=⑤	⑧ ①-④		⑨ ②-⑤	
				削減率			-10.7%	-7.4%		削減率		-15.5%	-10.2%

(宮城県ホームページ資料抜粋)